

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	1-41号久米線整備事業	会計	一般会計	事業No.	569	施策順No.	44-003
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-11-6		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	18	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	通学児童及び通過車両						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		通学児童数: 人		198	198	198	198	
		自動車交通量: 台/日		1402	1402	1402	1402	
意図	拡幅することにより、安全が確保される。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	進捗率: % (当年度までの実施済額/全体事業費×100) 77140/188900		6	21	68	41	58	C
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	予定どおり建物2戸と用地契約を行ったが、建物移転が伴うため取り壊し確認(支払い)までに至らず、平成23年度に繰越としたため目標数値には及ばなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	本路線は、久米地区の児童が山本小学校へ通学する指定道路であるが、現在、車道幅員も狭い上に歩道もなく、毎日児童が危険な状況にある。このため、早期に改良を行い、歩行者・通行車両の安全を確保する。 市道1-41号久米線 L=220m W=5.5(7.0)m		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	平成22年度は、地域活力基盤総合交付金事業に変わる社会資本整備総合交付金事業で、用地買収及び建物補償契約を行う。	1 用地買収面積 2 建物補償件数	1 A=591.12㎡ 2 2戸
23年度実施計画	道路改良工事L=74m, W=5.5(7.0)mを行う	1 工事施工延長	1 L=74m

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)社会資本整備総合交付金(活力創出基盤整備)(5.5/10) 22→23繰越明許費32,760千円
	国庫支出金		38,995	20,977	27,500	
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		31,934	17,192	22,500		
計(A)		70,929	38,169	50,000		
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B		38,169			

4 事業に対する市民や議会の意見

地元自治会・PTAから強い要望がある。
---------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産、事業者が、便利で安全に移動ができる	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	市道久米線は三遠南信自動車道開通に伴い開設した飯田山本インター付近と県道親田中村線を結ぶ幹線道路で、現道幅員が狭く車両の混雑が多く、スムーズな交通の確保が急務となっている路線であり、本事業の推進は交通の安全に貢献する。		
	後期に向けた課題	早期事業完了が望まれる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	事業効果は改良区間が早期に供用開始となることで、安全で安心な道路環境が確保できるため、利用者から事業推進が期待されているところである。懸案であった家屋移転も移転先が決定し、建物補償、土地(代替地)の契約が締結でき、現在工事可能な部分の工事を進めている。		
	後期に向けた課題	建物移転がなされた後の工事完了。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	法留め構造物として安価な補強土壁を採用した。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	幹線市道の改良であり、市の関与、受益者負担を検討する余地はない。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	事業主体は飯田市。事業推進を役割とし、事業説明、用地交渉、施工可能な箇所での工事発注を行った。		
	後期に向けた課題	特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成22年度までに懸案であった用地補償契約が電柱移転を除き完了した。また、施工可能な箇所の工事を進め事業推進を期待されている。		
	後期に向けた課題	平成24年度完了に向け事業進捗を図る。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------